我々は、青年会議所の活動において、明るい豊かな社会の実現を目指し、先輩諸兄が絶え間なく努力され、築き上げてこられた歴史や想いを、誇り高く伝承していかなければなりません。継承者の責任ある世代にとって経済や環境など困難な課題に直面している時代に、青年会議所が求める理念を実現する為には平坦な道ではありません。しかし、我々にとって出会う苦難も大きな喜びであり、自己成長の為と捉え楽しまなければならないと考えます。

乙訓青年会議所は、公益社団法人として実質的初年度を迎え運営や活動において変革を行わなくてはなりません。先輩諸兄が築き上げてこられた公益事業を、より地域の発展に繋がり市民の利益になるように発展させていく必要があります。この変革期に我々は、何事にも笑顔で実行し、公益事業に協力して頂く行政関係者、地域諸団体等との強固な繋がりを築き上げ、運動、活動の魅力を一人でも多くの市民に伝え知って頂き、地域コミュニティの再生と活性化を推進する事が重要であると考えます。

本年度、青少年育成委員会では、青少年犯罪だけでなく子どもの虐待や育児 放 棄 な ど が 多 く 報 道 さ れ 、 子 ど も 達 を 取 り 巻 く 環 境 だ け で な く 、 大 人 に も 問 題 があると考えます。7月オープン例会では、子は親の鏡と言われるように、子 ど も は 親 や 大 人 の 姿 勢 や 態 度 を 見 て 育 ち ま す 。 親 で あ る な し に 関 わ ら ず 大 人 と して、この事を自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正し、手本となるよう に 親 や 大 人 が 変 わ る 必 要 性 を 気 付 い て 頂 く 例 会 を 開 催 し ま す 。 乙 訓 文 化 少 年 団 は、先輩諸兄が地域の子ども達に、文化の創造を通じて、明るく豊かな心、思 い や り の 心 を 持 ち 、 ふ る さ と を 愛 し 、 世 界 の 平 和 を 願 う よ う な 少 年 の 育 成 を 目 的 に 掲 げ ら れ ま し た 。 そ の 育 成 会 事 業 を 継 承 し て 、 各 委 員 会 協 力 の も と 集 団 で の 活 動 を 通 じ て 、 奉 仕 、 協 調 の 精 神 を 養 い 、 子 ど も 達 が 地 域 の 歴 史 や 文 化 に 関 わる感動体験を提供し、心身共に健全に成長する事業を行います。また親子で も 一 緒 に 体 験 出 来 る 事 業 も 取 り 入 れ 、 触 れ 合 い 、 話 し 合 う コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 大 切 さ を 再 認 識 す る 気 付 き を 創 り ま す 。 ケ イ ジャ ー ズ カ ッ プ で は 、 実 行 委 員 会と協働して熱闘がくりひろげられる魅力ある大会運営を行います。第9回を 迎 え る 乙 訓 ふ る さ と ふ れ あ い 駅 伝 に お い て は 、 実 施 主 体 で あ る 大 会 委 員 会 が よ り 全 て の 運 営 を 担 い 市 民 が 主 役 に な れ る 事 業 と な る よ う 協 働 し ま す 。 ま た 、 志 を 受 け 継 い で く れ る 同 志 を 増 や す 為 の J C 伝 承 委 員 会 、 地 域 活 性 化 に 繋 が る ま ちづくり事業に協力を率先して行います。

最後に委員会メンバー全員が、子ども達に夢を与える為にも「憧れられる大人」をテーマに、切磋琢磨しながら、事業を行い活動するだけでなく仕事や家庭においても、言動や姿勢が手本と成るよう実践して行きます。それが次代を担う子ども達の為だけでなく、周りの大人にも大人が変われば子どもも変わるという気付きに繋がる事を委員会メンバー全員で目指します。